



形成外科のおはなし

1. 形成外科について

日本に形成外科が登場してから既に半世紀以上過ぎていますが、一般の皆様にはなじみの薄い診療科だと思いませんか。「形成外科はどんな病気を治すのですか」とよく質問されます。

形成外科とは、眼科・耳鼻科などの体の部位や臓器別の診療科ではなく、頭のてっぺんから手や足の先まで、目に見える身体表面の形態や機能の異常を修復する「機能回復」を目的とする外科系の専門領域です。形成外科では、主に次の三つを扱います。

・外傷を受けた組織や器官の修復と再建

・腫瘍切除後の形態的・機能的再建
・体表の先天異常の形態的・機能的再建

(1) 外傷を受けた組織や器官の修復と再建

主に体表の組織が対象で、熱傷、顔の骨の骨折を含む顔面外傷、指の切断や骨折・腱や神経の損傷などの手足の外傷、その他体表の切り傷などです。これら外傷を受けた組織をできるだけ機能的および形態的に元の状態に戻し、しかも、できるだけ傷跡を残さないように縫合していきます。組織に欠損がある場合は、皮膚を移植したり周囲の皮膚や筋肉などを移動して傷をふさぎます。

(2) 腫瘍切除後の形態的・機能的再建

皮膚の良性及び悪性腫瘍のほか、他科で行なった悪性腫瘍切除後の再建も関係する科と共同で行ないます。乳癌切除後の再建では、近年、皮膚拡張器やゲル充填人工乳房により乳房を再建します。顔面・口腔の再建や咽頭癌・食道癌切除後の再建では、顕微鏡下に直径約1〜3ミリの血管を縫合するのと皮膚、筋肉、骨や腸管などを移動し再建します。

(3) 体表の先天異常の形態的・機能的再建

頻度の高い口唇裂・口蓋裂や手足の先天異常があり、形態的および機能的にも正常と変わらない結果が得られています。その他、頭蓋骨早期癒合症、眼・

鼻・耳や外性器などの先天異常を治療します。

形成外科では他に眼瞼下垂、難治性潰瘍、褥瘡なども扱っており、治療する患者さんの年齢も新生児・小児から、成人・高齢者まで全ての年代に及びます。

2. 形成外科と整形外科の違い

整形外科とは、身体の芯となる骨・筋肉などの骨格系とそれを取り囲む筋肉やそれらを支配する神経系からなる「運動器」の機能的改善を重要視して治療する外科で、背骨と骨盤というからだの土台骨と四肢を主な治療対象にしています。形成外科は、主に身体の表面の機能や形態、日常生活を快適におくるための障害となる病気を治療対象にしています。

「街なか包括」始めます

4月1日から、砺波総合病院内の患者総合支援センター「おあしす」の介護部門の相談窓口で職員が常駐し、機能をより一層強化しました。医療と介護の窓口機能を集約することで、患者さんの相談にかかる負担を軽減します。

「街なか包括」として介護の相談窓口となり、今後病院の医療と連携して在宅生活をサポートします。

3. 形成外科と美容外科の違い

美容外科とは、普通の人をもっと美しくするということを目的とします。美容外科は保険給付外(保険がきかない自由診療)に当たりますので、保険診療機関である当院では行なっていません。

以上、形成外科について説明しました。対象となる疾患は多岐にわたっていますので、よくわからなければ形成外科までお問合せください。

砺波市訪問看護ステーション開所



4月1日、県内の公立病院で初の訪問看護ステーションを設置しました。

在宅医療の強化を図るため、市で運営している訪問看護ステーションを砺波総合病院に移管しました。

これによって訪問看護の拠点と砺波総合病院の距離がなくなり、訪問看護と医療との連携がより密接になることが期待されます。

病院を退院してからも、より一層の安全と安心をお届けします。